

平成24年度被災地域における復興支援活動事業
電動アシスト自転車の提供・利用状況調査
アンケート結果報告書

平成25年3月

財団法人自転車産業振興協会

目 次

I. 調査概要	2
II. 対象者属性	3
III. 調査結果	5
1. 電動アシスト自転車の用途	5
2. 電動アシスト自転車の具体的用途	6
3. 活動距離（活動拠点から支援先までの距離）	8
4. 震災前の活動支援に利用した主な交通手段	10
5. 震災前の活動支援の交通手段として利用した具体的理由	11
6. 震災後の活動支援に利用した主な交通手段	13
7. 震災後の活動支援の交通手段として利用した具体的理由	15
8. 電動アシスト自転車の利便性評価	18
9. 電動アシスト自転車の利便性についての具体的評価理由	19
10. 電動アシスト自転車の改善点・要望	21
11. 自由意見	23
IV. 参考資料	
調査票	25
電動アシスト自転車提供先	27

I.調査概要

1. 調査目的

被災地域を中心に活躍する地域のグループ、住民自治組織、教育機関、団体等の活動を支援するため、電動アシスト自転車を提供し、その上で被災地域における電動アシスト自転車に関する利用者ニーズ等を把握し、今後の電動アシスト自転車の改良、開発に資することを目的とする。

2. 調査方法

被災地域、計5県、35箇所に入入した電動アシスト自転車200台の利用者に対してアンケートを実施。

3. 調査地域

提供先の青森（4箇所）、秋田（1箇所）、岩手（12箇所）、宮城（17箇所）、福島（1箇所）の計5県。

4. 調査時期

平成23年8月～平成24年3月。

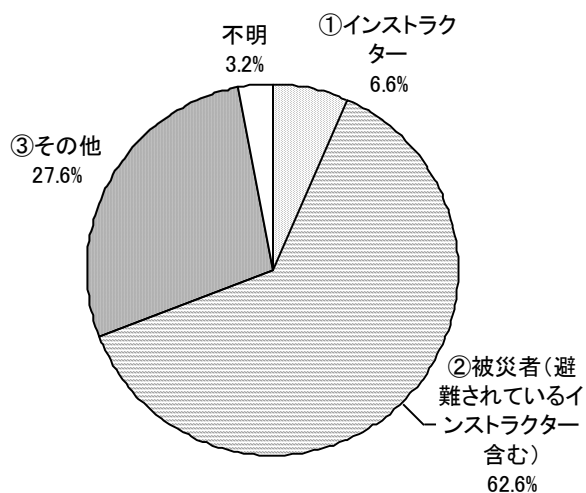
5. アンケート回収数

総数377通

II.対象者属性

1. 電動アシスト自転車利用者

電動アシスト自転車利用者(n=377)

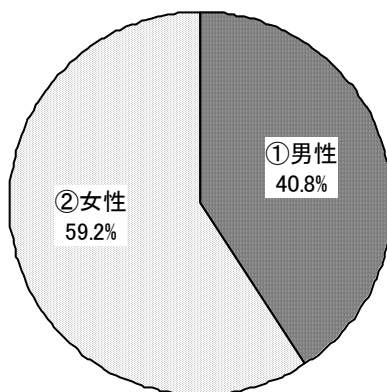


問1 その他	件数	%
ボランティア	39	10.3
教員・学校職員	15	4.0
NPO職員・スタッフ	6	1.6
震災支援スタッフ	5	1.3
児童厚生員	5	1.3
その他(農家・旅行者等)	5	1.3
不明	29	7.7
計	104	27.6

- 電動アシスト自転車の利用者は、「被災者（避難されているインストラクター含む）」が最も多く62.6%である。次いで「その他」が27.6%と3割近い比率である。なお「その他」内訳として、「ボランティア」との回答が10.3%と最も高く、次いで「教員・学校職員」や「NPO職員・スタッフ」等の利用者が挙げられた。

2. 性別

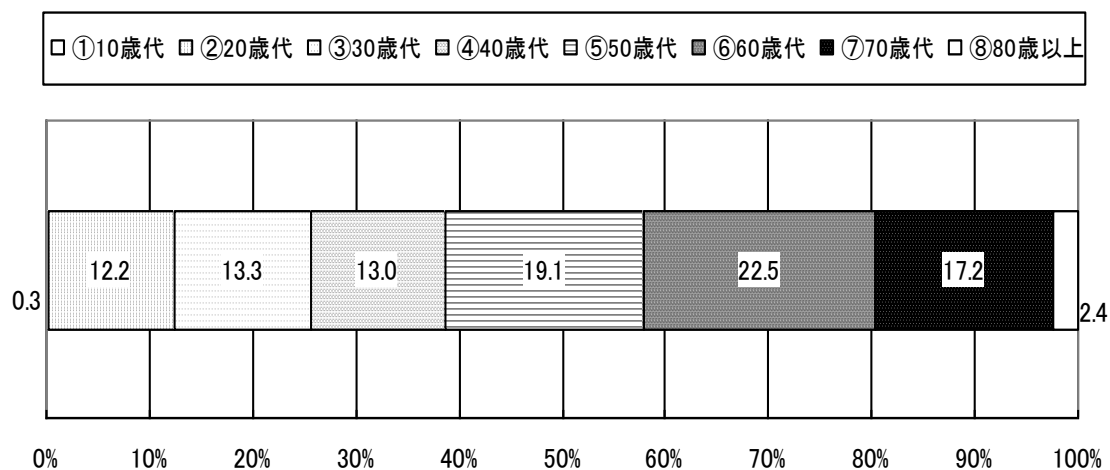
電動アシスト自転車利用者 性別 (n=377)



- 性別は「女性」が約6割、「男性」が約4割である。

3. 年代別

電動アシスト自転車利用者 年代 (n=377)

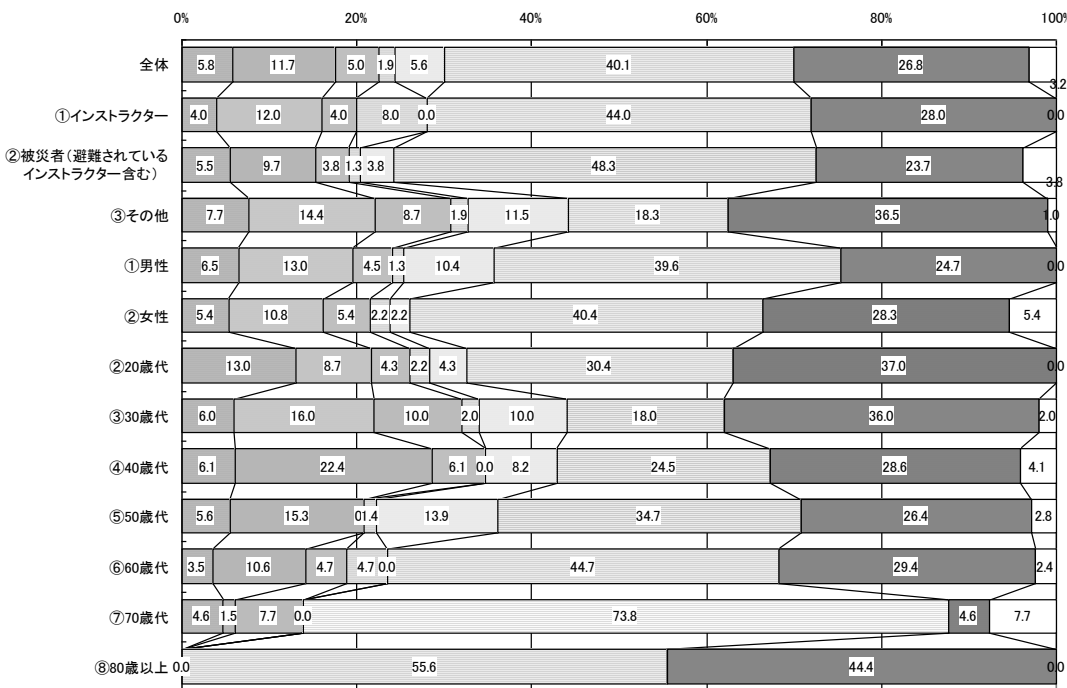
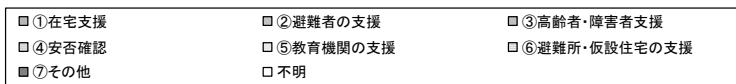


- 年代別では「60歳代」の比率が22.5%と最も高く、50歳代以上で約6割を占める。

Ⅲ.調査結果

1. 電動アシスト自転車の用途

	n =	①在宅支援		②避難者の支援		③高齢者・障害者支援		④安否確認		⑤教育機関の支援		⑥避難所・仮設住宅の支援		⑦その他		不明		
		件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	
全体	377	22	5.8	44	11.7	19	5.0	7	1.9	21	5.6	151	40.1	101	26.8	12	3.2	
利用者	①インストラクター	25	1	4.0	3	12.0	1	4.0	2	8.0		0.0	11	44.0	7	28.0		0.0
	②被災者（避難されているインストラクター含む）	236	13	5.5	23	9.7	9	3.8	3	1.3	9	3.8	114	48.3	56	23.7	9	3.8
	③その他	104	8	7.7	15	14.4	9	8.7	2	1.9	12	11.5	19	18.3	38	36.5	1	1.0
	不明	12		0.0	3	25.0		0.0		0.0		0.0	7	58.3		0.0	2	16.7
性別	①男性	154	10	6.5	20	13.0	7	4.5	2	1.3	16	10.4	61	39.6	38	24.7		0.0
	②女性	223	12	5.4	24	10.8	12	5.4	5	2.2	5	2.2	90	40.4	63	28.3	12	5.4
年代	①10歳代	1		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	1	100.0		0.0
	②20歳代	46	6	13.0	4	8.7	2	4.3	1	2.2	2	4.3	14	30.4	17	37.0		0.0
	③30歳代	50	3	6.0	8	16.0	5	10.0	1	2.0	5	10.0	9	18.0	18	36.0	1	2.0
	④40歳代	49	3	6.1	11	22.4	3	6.1		0.0	4	8.2	12	24.5	14	28.6	2	4.1
	⑤50歳代	72	4	5.6	11	15.3		0.0	1	1.4	10	13.9	25	34.7	19	26.4	2	2.8
	⑥60歳代	85	3	3.5	9	10.6	4	4.7	4	4.7		0.0	38	44.7	25	29.4	2	2.4
	⑦70歳代	65	3	4.6	1	1.5	5	7.7		0.0		0.0	48	73.8	3	4.6	5	7.7
	⑧80歳以上	9		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	5	55.6	4	44.4		0.0



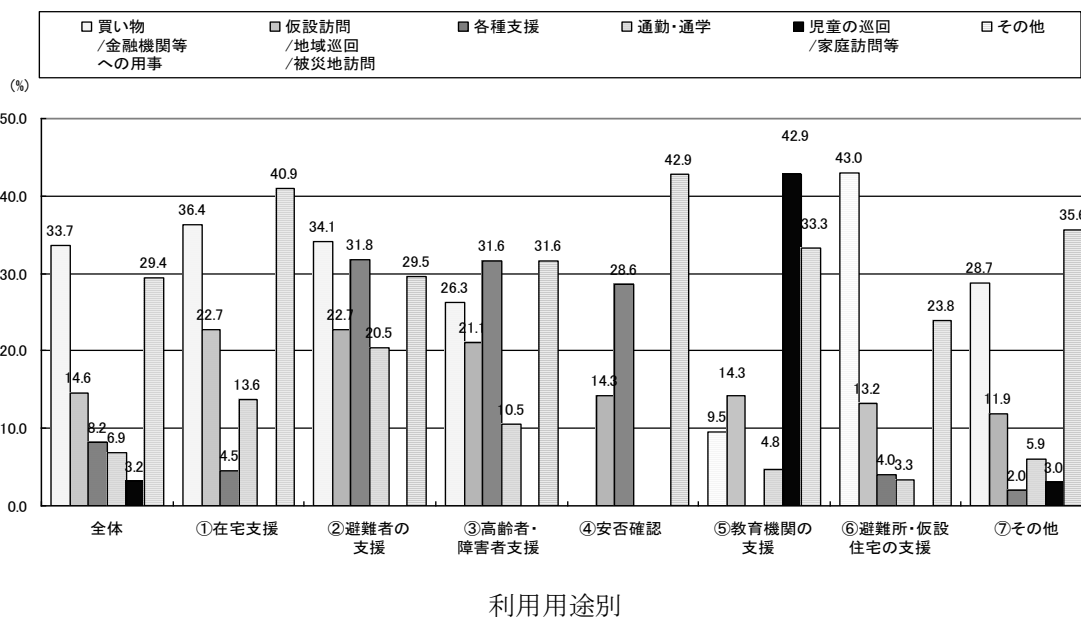
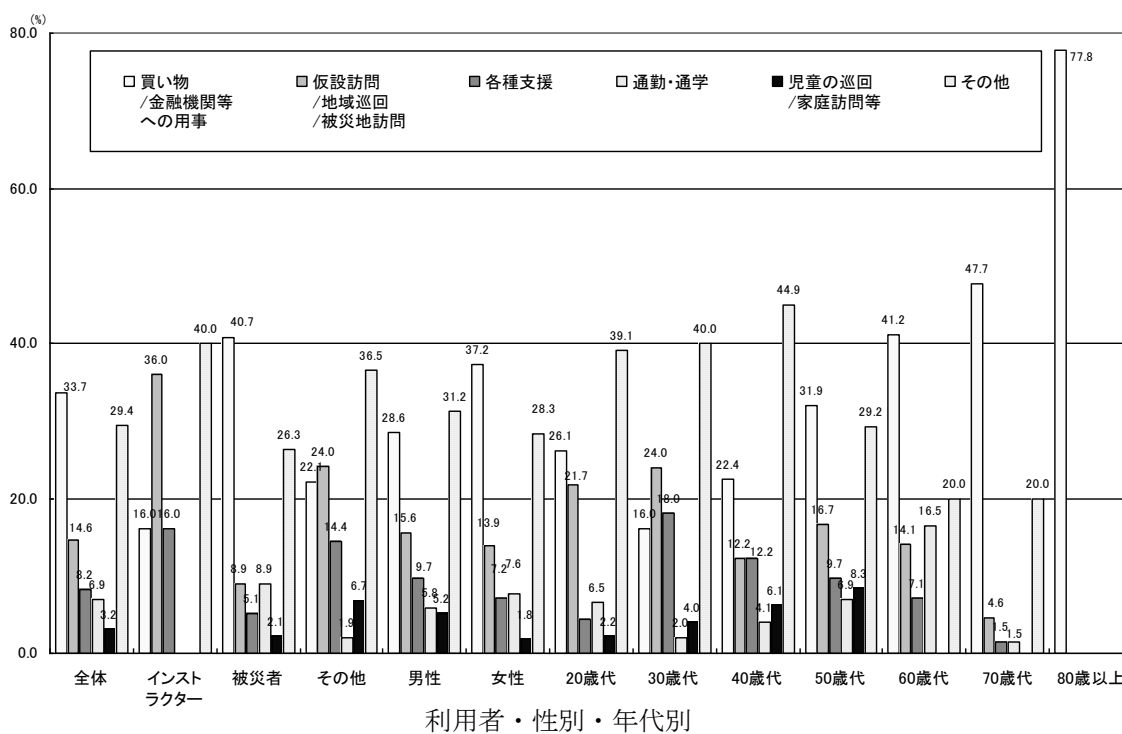
利用者・性別・年代別

その他	件数	%
買い物や近くへの用足し	33	8.8
連絡活動や各種支援	25	6.6
散歩や運動等のリフレッシュ	13	3.4
あまり利用していない	4	1.1
不明	26	6.9
計	101	26.8

- 全体で「避難所・仮設住宅への支援」が40.1%と高く、次いで「避難者の支援」が11.7%と続いている。男女別、年代別においても「避難所・仮設住宅への支援」がいずれの場合も、高い傾向となっている。
- 「その他」内訳としては、「買い物や近くへの用足し」が最も多く8.8%、「連絡活動や各種支援」6.6%、などである。

2. 電動アシスト自転車の具体的用途

	n=	買い物/金融機関等への用事		仮設訪問/地域巡回/被災地訪問		各種支援		通勤・通学		児童の巡回/家庭訪問等		その他		不明		
		件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	
全体	377	127	33.7	55	14.6	31	8.2	26	6.9	12	3.2	111	29.4	62	16.4	
利用者	①インストラクター	25	4	16.0	9	36.0	4	16.0		0.0		0.0	10	40.0		0.0
	②被災者(避難されているインストラクター含む)	236	96	40.7	21	8.9	12	5.1	21	8.9	5	2.1	62	26.3	51	21.6
	③その他	104	23	22.1	25	24.0	15	14.4	2	1.9	7	6.7	38	36.5	7	6.7
	不明	12	4	33.3		0.0		0.0	3	25.0		0.0	1	8.3	4	33.3
性別	①男性	154	44	28.6	24	15.6	15	9.7	9	5.8	8	5.2	48	31.2	24	15.6
	②女性	223	83	37.2	31	13.9	16	7.2	17	7.6	4	1.8	63	28.3	38	17.0
年代	①10歳代	1		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
	②20歳代	46	12	26.1	10	21.7	2	4.3	3	6.5	1	2.2	18	39.1	4	8.7
	③30歳代	50	8	16.0	12	24.0	9	18.0	1	2.0	2	4.0	20	40.0	6	12.0
	④40歳代	49	11	22.4	6	12.2	6	12.2	2	4.1	3	6.1	22	44.9	4	8.2
	⑤50歳代	72	23	31.9	12	16.7	7	9.7	5	6.9	6	8.3	21	29.2	11	15.3
	⑥60歳代	85	35	41.2	12	14.1	6	7.1	14	16.5		0.0	17	20.0	12	14.1
	⑦70歳代	65	31	47.7	3	4.6	1	1.5	1	1.5		0.0	13	20.0	23	35.4
	⑧80歳以上	9	7	77.8		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	2	22.2
利用用途	①在宅支援	22	8	36.4	5	22.7	1	4.5	3	13.6		0.0	9	40.9	2	9.1
	②避難者の支援	44	15	34.1	10	22.7	14	31.8	9	20.5		0.0	13	29.5		0.0
	③高齢者・障害者支援	19	5	26.3	4	21.1	6	31.6	2	10.5		0.0	6	31.6	2	10.5
	④安否確認	7		0.0	1	14.3	2	28.6		0.0		0.0	3	42.9	2	28.6
	⑤教育機関の支援	21	2	9.5	3	14.3		0.0	1	4.8	9	42.9	7	33.3	1	4.8
	⑥避難所・仮設住宅の支援	151	65	43.0	20	13.2	6	4.0	5	3.3		0.0	36	23.8	32	21.2
	⑦その他	101	29	28.7	12	11.9	2	2.0	6	5.9	3	3.0	36	35.6	14	13.9
	不明	12	3	25.0		0.0		0.0		0.0		0.0	1	8.3	9	75.0

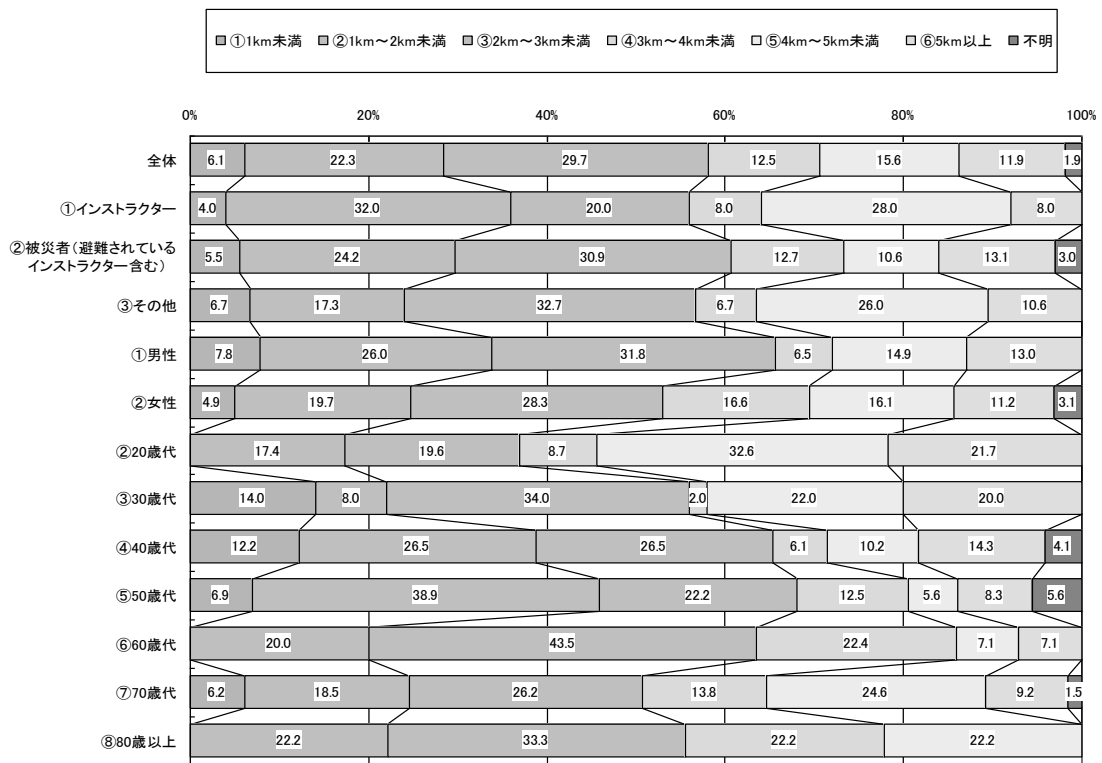


その他	件数	%	その他	件数	%	その他	件数	%
友人宅・親戚宅へ	9	2.4%	冬場は利用できない	4	1.1%	体カづくりとリハビリ・運動	2	0.5%
サイクリング・散歩	9	2.4%	小廻りが利く為	4	1.1%	病院	2	0.5%
町内・近距離移動	9	2.4%	自動車代用	4	1.1%	被災者等への貸し出し	2	0.5%
物資搬入	9	2.4%	事務所間・現場間移動	4	1.1%	生活全般に利用	2	0.5%
関係機関(市役所等)との調整	7	1.9%	会報・郵便物等の配達	4	1.1%	草刈り	1	0.3%
会話、打ち合わせ	6	1.6%	教育関係機関・学校へ	3	0.8%	高齢のため	1	0.3%
個別健康相談訪問	6	1.6%	交通安全確認業務	3	0.8%	自転車代用	1	0.3%
足がないので利用	6	1.6%	部活動指導・家庭訪問	3	0.8%	ボランティアのコーディネイト	1	0.3%
情報収取、リサーチ等	6	1.6%	お茶会の会場に通う	2	0.5%	山間部の為	1	0.3%

- 具体的な用途として全体では、「買い物/金融機関等への用事」が最も高く、33.7%を占める。次いで、「仮設訪問/地域巡回/被災地訪問」で14.6%と続いている。
- 「買い物/金融機関等への用事」では男性より女性の比率が高く、37.2%と男性を8.6ポイント上回る。年代別では、60歳代以降で4割を超える比率となり80歳代では約8割と高い。30歳代では「仮設訪問/地域巡回/被災地訪問」が24.0%と最も高く、全体と比較し約9ポイント高い。
- 「その他」の意見は、ばらつきがみられるが、「友人宅・親戚宅へ」、「サイクリング・散策」、「町内・近距離移動」、「物資搬入」、等があげられた。

3. 活動距離（活動拠点から支援先までの距離）

		①1km未満		②1km～2km未満		③2km～3km未満		④3km～4km未満		⑤4km～5km未満		⑥5km以上		不明		
		件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	
n=全体		377	23	6.1	84	22.3	112	29.7	47	12.5	59	15.6	45	11.9	7	1.9
利用者	①インストラクター	25	1	4.0	8	32.0	5	20.0	2	8.0	7	28.0	2	8.0		0.0
	②被災者(避難されているインストラクター含む)	236	13	5.5	57	24.2	73	30.9	30	12.7	25	10.6	31	13.1	7	3.0
	③その他	104	7	6.7	18	17.3	34	32.7	7	6.7	27	26.0	11	10.6		0.0
	不明	12	2	16.7	1	8.3		0.0	8	66.7		0.0	1	8.3		0.0
性別	①男性	154	12	7.8	40	26.0	49	31.8	10	6.5	23	14.9	20	13.0		0.0
	②女性	223	11	4.9	44	19.7	63	28.3	37	16.6	36	16.1	25	11.2	7	3.1
年代	①10歳代	1	1	100.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
	②20歳代	46		0.0	8	17.4	9	19.6	4	8.7	15	32.6	10	21.7		0.0
	③30歳代	50	7	14.0	4	8.0	17	34.0	1	2.0	11	22.0	10	20.0		0.0
	④40歳代	49	6	12.2	13	26.5	13	26.5	3	6.1	5	10.2	7	14.3	2	4.1
	⑤50歳代	72	5	6.9	28	38.9	16	22.2	9	12.5	4	5.6	6	8.3	4	5.6
	⑥60歳代	85		0.0	17	20.0	37	43.5	19	22.4	6	7.1	6	7.1		0.0
	⑦70歳代	65	4	6.2	12	18.5	17	26.2	9	13.8	16	24.6	6	9.2	1	1.5
	⑧80歳以上	9		0.0	2	22.2	3	33.3	2	22.2	2	22.2		0.0		0.0

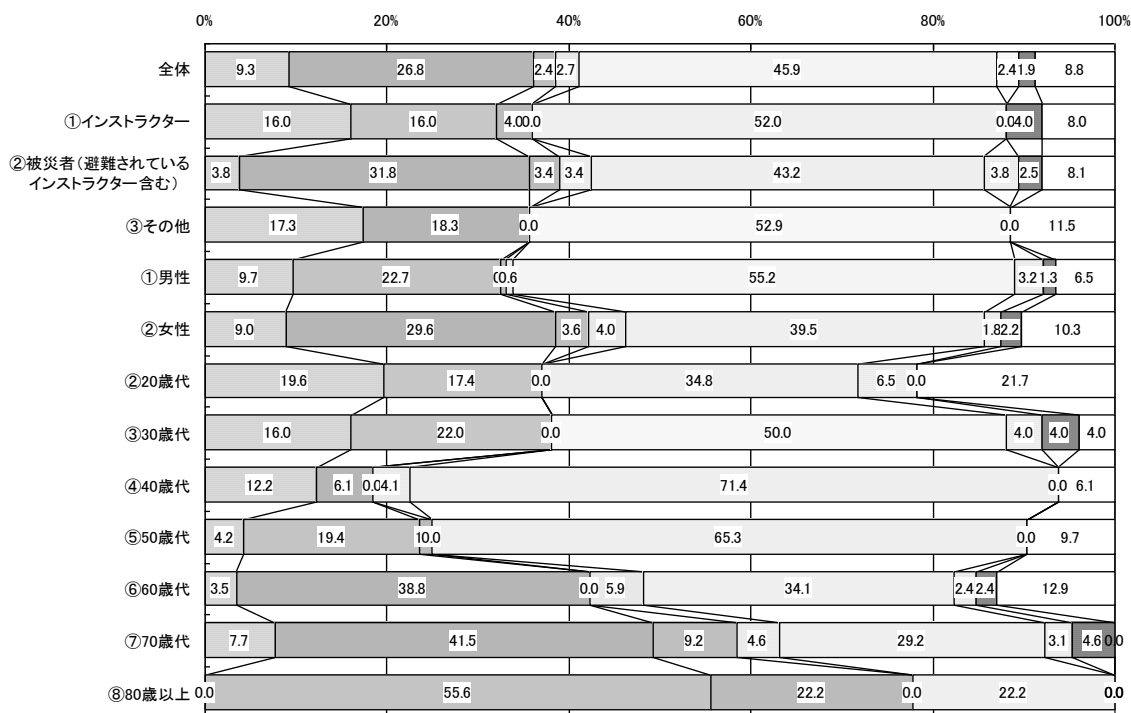
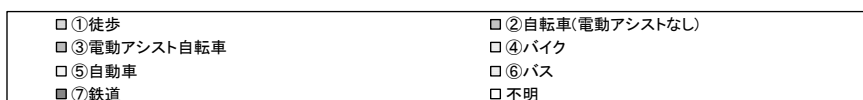


利用者・性別・年代別

- 全体で「2~3km未満」の利用が最も多く29.7%と約3割を占める。次いで、「1~2km未満」が22.3%、「4~5km未満」が15.6%と続く。
- 年代別では20歳代で、「4~5km未満」が32.6%と最も高く、全体と比較して17ポイント上回っている。また、30歳代では「2~3km未満」が34.0%と最も高いが全体と比較するとほとんど差異はない。
- 60歳代において、「2~3km未満」が43.5%と全体と比較して約14ポイント高く、50歳代では「1~2km未満」の利用に関して38.9%と全体より約17ポイント高くなっており、いずれの年代においても比較的近距离での使用率が高い。

4. 震災前の活動支援に利用した主な交通手段

	n=	①徒歩		②自転車 (電動アシストなし)		③電動アシスト 自転車		④バイク		⑤自動車		⑥バス		⑦鉄道		不明		
		件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	
		全体	377	35	9.3	101	26.8	9	2.4	10	2.7	173	45.9	9	2.4	7	1.9	33
利用者	①インストラクター	25	4	16.0	4	16.0	1	4.0		0.0	13	52.0		0.0	1	4.0	2	8.0
	②被災者(避難されているインストラクター含む)	236	9	3.8	75	31.8	8	3.4	8	3.4	102	43.2	9	3.8	6	2.5	19	8.1
	③その他	104	18	17.3	19	18.3		0.0		0.0	55	52.9		0.0		0.0	12	11.5
	不明	12	4	33.3	3	25.0		0.0	2	16.7	3	25.0		0.0		0.0		0.0
性別	①男性	154	15	9.7	35	22.7	1	0.6	1	0.6	85	55.2	5	3.2	2	1.3	10	6.5
	②女性	223	20	9.0	66	29.6	8	3.6	9	4.0	88	39.5	4	1.8	5	2.2	23	10.3
年代	①10歳代	1	1	100.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
	②20歳代	46	9	19.6	8	17.4		0.0		0.0	16	34.8	3	6.5		0.0	10	21.7
	③30歳代	50	8	16.0	11	22.0		0.0		0.0	25	50.0	2	4.0	2	4.0	2	4.0
	④40歳代	49	6	12.2	3	6.1		0.0	2	4.1	35	71.4		0.0		0.0	3	6.1
	⑤50歳代	72	3	4.2	14	19.4	1	1.4		0.0	47	65.3		0.0		0.0	7	9.7
	⑥60歳代	85	3	3.5	33	38.8		0.0	5	5.9	29	34.1	2	2.4	2	2.4	11	12.9
	⑦70歳代	65	5	7.7	27	41.5	6	9.2	3	4.6	19	29.2	2	3.1	3	4.6		0.0
	⑧80歳以上	9		0.0	5	55.6	2	22.2		0.0	2	22.2		0.0		0.0		0.0

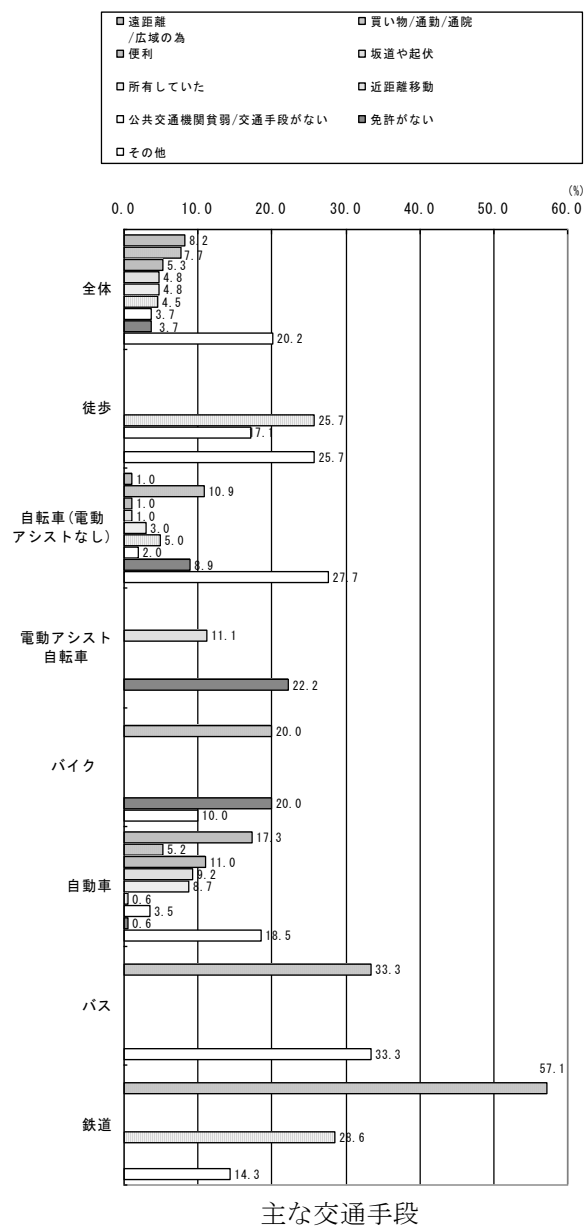
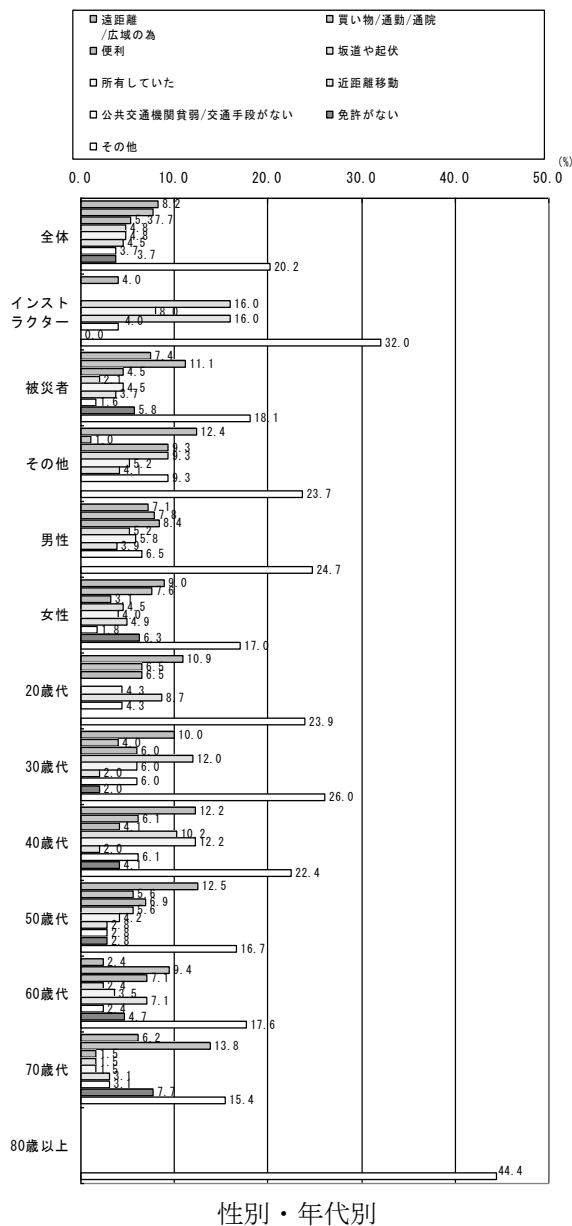


利用者・性別・年代別

- 全体で震災前は、「自動車」の利用による地域支援活動が45.9%と約半数近くを占める。次いで「自転車(電動アシストなし)」で26.8%と続き、「電動アシスト自転車」の震災前の利用は、2.4%と低い。
- 性別では男性の「自動車」利用が55.2%と、女性の39.5%と比較し、約15ポイント以上高くなっている。
- 年代別で「自動車」の利用は、40歳代の71.4%、50歳代の65.3%の比率が高い。60歳代以降の高齢者では「自動車」利用に比較して「自転車(電動アシストなし)」利用率が高くなる傾向にある。

5. 震災前の活動支援の交通手段として利用した具体的理由

	n=	遠距離/広域の為		買い物/通勤/通院		便利		坂道や起伏		所有していた		近距離移動		公共交通機関 貧弱/交通手段がない		免許がない		その他		不明		
		件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	
全体	377	31	8.2	29	7.7	20	5.3	18	4.8	18	4.8	17	4.5	14	3.7	14	3.7	76	20.2	140	37.1	
利用者	①インストラクター	25	1	4.0	0.0	0.0	0.0	4	10.0	2	8.0	4	16.0	1	4.0	0.0	0.0	8	32.0	5	20.0	
	②被災者(避難されているインストラクター含む)	243	18	7.4	27	11.1	11	4.5	5	2.1	11	4.5	9	3.7	4	1.6	14	5.8	44	18.1	100	41.2
	③その他	97	12	12.4	1	1.0	9	9.3	9	9.3	5	5.2	4	4.1	9	9.3	0.0	0.0	23	23.7	25	25.8
	不明	12		0.0	1	8.3		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	1	8.3	10	83.3
	性別	①男性	154	11	7.1	12	7.8	13	8.4	8	5.2	9	5.8	6	3.9	10	6.5	0.0	0.0	38	24.7	47
	②女性	223	20	9.0	17	7.6	7	3.1	10	4.5	9	4.0	11	4.9	4	1.8	14	6.3	38	17.0	93	41.7
年代	①10歳代	1		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1	100.0		0.0		0.0		0.0	0.0		0.0	
	②20歳代	46	5	10.9	3	6.5	3	6.5		0.0	2	4.3	4	8.7	2	4.3	0.0	0.0	11	23.9	16	34.8
	③30歳代	50	5	10.0	2	4.0	3	6.0	6	12.0	3	6.0	1	2.0	3	6.0	1	2.0	13	26.0	13	26.0
	④40歳代	49	6	12.2	3	6.1	2	4.1	5	10.2	6	12.2	1	2.0	3	6.1	2	4.1	11	22.4	10	20.4
	⑤50歳代	72	9	12.5	4	5.6	5	6.9	4	5.6	3	4.2	2	2.8	2	2.8	2	2.8	12	16.7	29	40.3
	⑥60歳代	85	2	2.4	8	9.4	6	7.1	2	2.4	3	3.5	6	7.1	2	2.4	4	4.7	15	17.6	37	43.5
	⑦70歳代	65	4	6.2	9	13.8	1	1.5	1	1.5	1	1.5	2	3.1	2	3.1	5	7.7	10	15.4	30	46.2
	⑧80歳以上	9		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4	44.4	5	55.6
	震災前の主な交通手段	①徒歩	35		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9	25.7	6	17.1		0.0		0.0	9	25.7	11
②自転車(電動アシストなし)		101	1	1.0	11	10.9	1	1.0	1	1.0	3	3.0	5	5.0	2	2.0	9	8.9	28	27.7	40	39.6
③電動アシスト自転車		9		0.0	0.0	0.0	0.0	1	11.1		0.0		0.0		0.0	2	22.2		0.0	6	66.7	
④バイク		10		0.0	2	20.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	2	20.0	1	10.0	5	50.0
⑤自動車		173	30	17.3	9	5.2	19	11.0	16	9.2	15	8.7	1	0.6	6	3.5	1	0.6	32	18.5	44	25.4
⑥バス		9		0.0	3	33.3		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	3	33.3	3	33.3
⑦鉄道		7		0.0	4	57.1		0.0		0.0		0.0	2	28.6		0.0		0.0	1	14.3		0.0
不明		33		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2	6.1	31	93.9



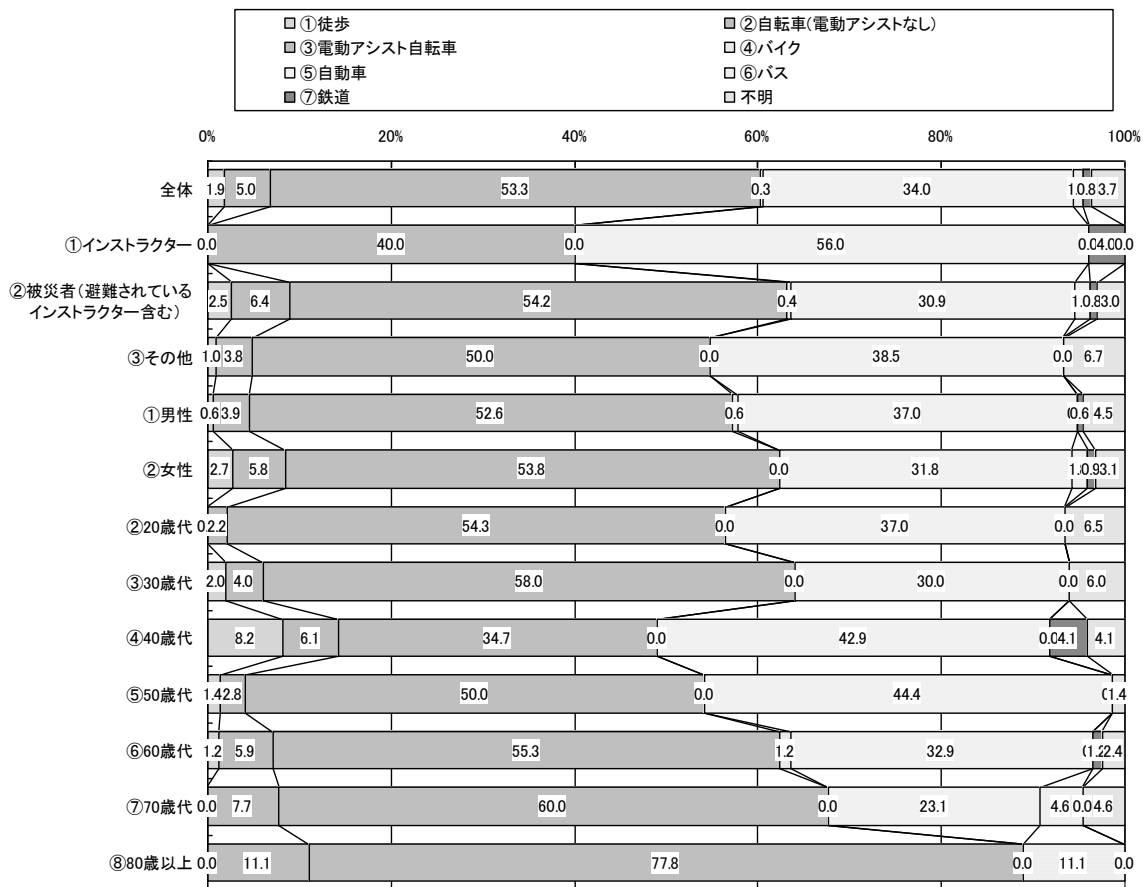
- ・ 震災前の利用理由として自動車については、「遠距離／広域の為」が17.3%と最も高く、次いで「便利」であるが11.0%、「所有していた」が8.7%の順となっている。
- ・ 自転車（電動アシストなし）では、「買い物／通勤／通院」に利用が10.9%、「免許がない」が8.9%である。
- ・ 徒歩での利用理由として、「近距離移動」25.7%、「公共交通機関が貧弱／交通手段がない」が17.1%と続く。

	n=	1km未満		1km～2km未満		2km～3km未満		3km～4km未満		4km～5km未満		5km以上		不明		
		件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	
全体	377	23	6.1	84	22.3	112	29.7	47	12.5	59	15.6	45	11.9	7	1.9	
震災前の 主な交通手段	①徒歩	35	9	25.7	8	22.9	5	14.3	3	8.6	6	17.1	4	11.4	0	0.0
	②自転車(電動アシストなし)	101	2	2.0	18	17.8	40	39.6	12	11.9	16	15.8	10	9.9	3	3.0
	③電動アシスト自転車	9		0.0	1	11.1	4	44.4	4	44.4		0.0		0.0		0.0
	④バイク	10		0.0	4	40.0		0.0	2	20.0	4	40.0		0.0		0.0
	⑤自動車	173	12	6.9	38	22.0	52	30.1	19	11.0	20	11.6	28	16.2	4	2.3
	⑥バス	9		0.0	2	22.2	2	22.2	2	22.2	2	22.2	1	11.1		0.0
	⑦鉄道	7		0.0		0.0	2	28.6	3	42.9	1	14.3	1	14.3		0.0
	不明	33		0.0	13	39.4	7	21.2	2	6.1	10	30.3	1	3.0		0.0

- 震災前の交通手段と活動距離の関係をみると、徒歩の場合「1km未満」と「1～2km未満」と短い距離での移動が約5割である。「1～2km未満」ではバイクが約4割、「2km～3km未満」では、電動アシスト自転車と自転車（電動アシストなし）がともに約4割と高い。自動車は「5km以上」の距離で16.2%と他の交通手段と比較し高い。

6. 震災後の活動支援に利用した主な交通手段

	n=	①徒歩		②自転車 (電動アシストなし)		③電動アシスト 自転車		④バイク		⑤自動車		⑥バス		⑦鉄道		不明		
		件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	
全体	377	7	1.9	19	5.0	201	53.3	1	0.3	128	34.0	4	1.1	3	0.8	14	3.7	
利用者	①インストラクター	25		0.0		0.0	10	40.0		0.0	14	56.0		0.0	1	4.0		0.0
	②被災者(避難されているインストラクター含む)	236	6	2.5	15	6.4	128	54.2	1	0.4	73	30.9	4	1.7	2	0.8	7	3.0
	③その他	104	1	1.0	4	3.8	52	50.0		0.0	40	38.5		0.0		0.0	7	6.7
	不明	12		0.0		0.0	11	91.7		0.0	1	8.3		0.0		0.0		0.0
性別	①男性	154	1	0.6	6	3.9	81	52.6	1	0.6	57	37.0		0.0	1	0.6	7	4.5
	②女性	223	6	2.7	13	5.8	120	53.8		0.0	71	31.8	4	1.8	2	0.9	7	3.1
年代	①10歳代	1		0.0		0.0	1	100.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
	②20歳代	46		0.0	1	2.2	25	54.3		0.0	17	37.0		0.0		0.0	3	6.5
	③30歳代	50	1	2.0	2	4.0	29	58.0		0.0	15	30.0		0.0		0.0	3	6.0
	④40歳代	49	4	8.2	3	6.1	17	34.7		0.0	21	42.9		0.0	2	4.1	2	4.1
	⑤50歳代	72	1	1.4	2	2.8	36	50.0		0.0	32	44.4		0.0		0.0	1	1.4
	⑥60歳代	85	1	1.2	5	5.9	47	55.3	1	1.2	28	32.9		0.0	1	1.2	2	2.4
	⑦70歳代	65		0.0	5	7.7	39	60.0		0.0	15	23.1	3	4.6		0.0	3	4.6
	⑧80歳以上	9		0.0	1	11.1	7	77.8		0.0		0.0	1	11.1		0.0		0.0



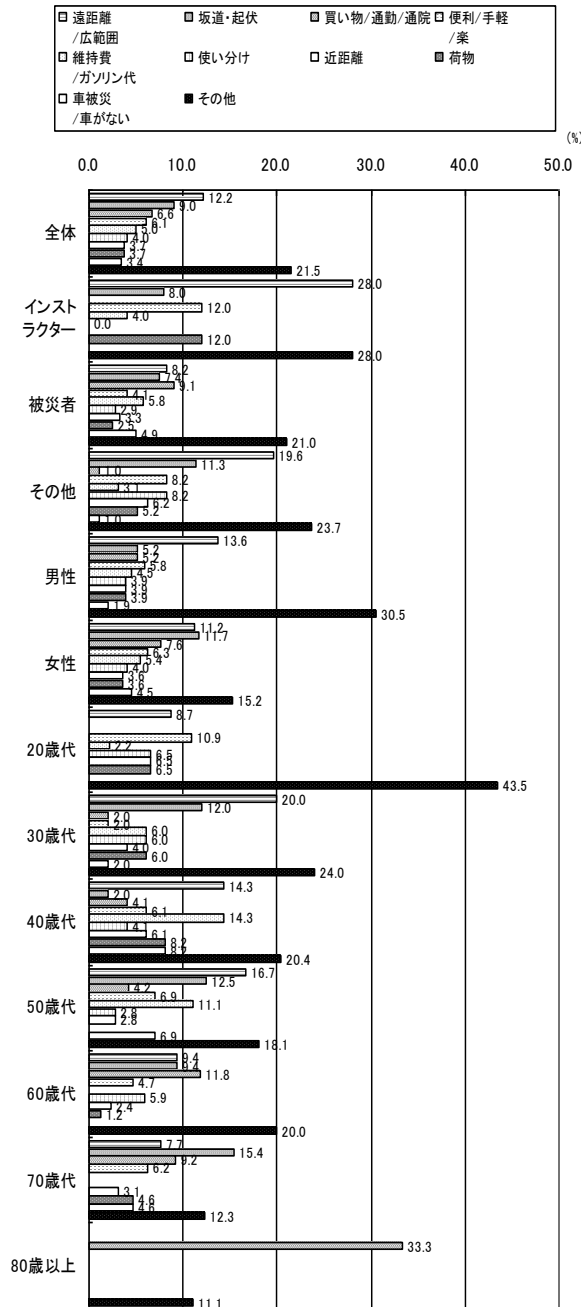
利用者・性別・年代別

- 全体で震災後の活動支援に利用した主な交通手段は、「電動アシスト自転車」が、53.3%と5割を超える利用で、次いで「自動車」の34.0%と続いている。また、その他手段は、全て比率が1桁台と低い数値である。
- 年代別にみると、ほぼ全ての年代において、「電動アシスト自転車」利用の比率が高いが、唯一、40歳代において「自動車」利用が42.9%と「電動アシスト自転車」の34.7%に比較して約8ポイント利用率を上廻っている。また、70歳代では「電動アシスト自転車」の利用が60.0%、80歳代では77.8%と6割を超える高い比率となっている。

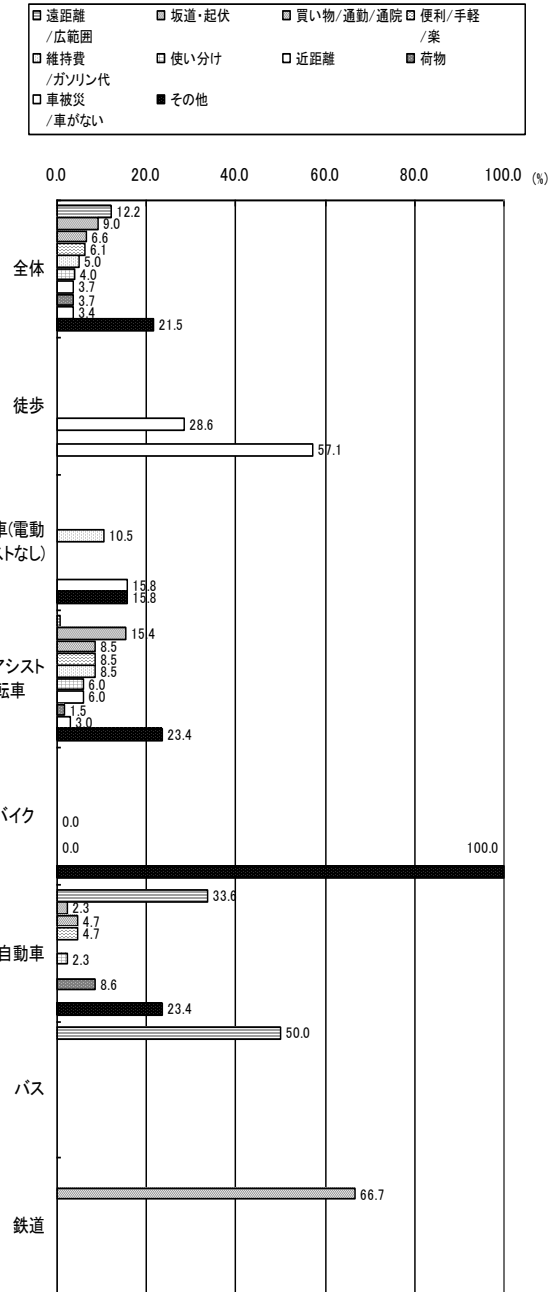
7. 震災後の活動支援の交通手段として利用した具体的理由

	n=	遠距離 /広範囲		坂道・起伏		買い物/通勤/通 院		便利/手軽 /楽		維持費 /ガソリン代		使い分け		近距離		荷物		車被災 /車がない		その他		不明		
		件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	
全体	377	46	12.2	34	9.0	25	6.6	23	6.1	19	5.0	15	4.0	14	3.7	14	3.7	13	3.4	81	21.5	93	24.7	
利用者	①インストラクター	25	7	28.0	2	8.0		0.0	3	12.0	1	4.0		0.0		0.0	3	12.0		0.0	7	28.0	2	8.0
	②被災者(避難されているインストラクター含む)	243	20	8.2	18	7.4	22	9.1	10	4.1	14	5.8	7	2.9	8	3.3	6	2.5	12	4.9	51	21.0	75	30.9
	③その他	97	19	19.6	11	11.3	1	1.0	8	8.2	3	3.1	8	8.2	6	6.2	5	5.2	1	1.0	23	23.7	12	12.4
	不明	12		0.0	3	25.0	2	16.7	2	16.7	1	8.3		0.0		0.0		0.0		0.0		4	33.3	
性別	①男性	154	21	13.6	8	5.2	8	5.2	9	5.8	7	4.5	6	3.9	6	3.9	6	3.9	3	1.9	47	30.5	33	21.4
	②女性	223	25	11.2	26	11.7	17	7.6	14	6.3	12	5.4	9	4.0	8	3.6	8	3.6	10	4.5	34	15.2	60	26.9
年代	①10歳代	1		0.0		0.0		0.0	1	100.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
	②20歳代	46	4	8.7		0.0		0.0	5	10.9	1	2.2	3	6.5	3	6.5	3	6.5		0.0	20	43.5	7	15.2
	③30歳代	50	10	20.0	6	12.0	1	2.0	1	2.0	3	6.0	3	6.0	2	4.0	3	6.0	1	2.0	12	24.0	8	16.0
	④40歳代	49	7	14.3	1	2.0	2	4.1	3	6.1	7	14.3	2	4.1	3	6.1	4	8.2	4	8.2	10	20.4	6	12.2
	⑤50歳代	72	12	16.7	9	12.5	3	4.2	5	6.9	8	11.1	2	2.8	2	2.8		0.0	5	6.9	13	18.1	13	18.1
	⑥60歳代	85	8	9.4	8	9.4	10	11.8	4	4.7		0.0	5	5.9	2	2.4	1	1.2		0.0	17	20.0	30	35.3
	⑦70歳代	65	5	7.7	10	15.4	6	9.2	4	6.2		0.0		0.0	2	3.1	3	4.6	3	4.6	8	12.3	24	36.9
	⑧80歳以上	9		0.0		0.0	3	33.3		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	1	11.1	5	55.6
震災後の主な交通手段	①徒歩	7		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	2	28.6		0.0	4	57.1		0.0	1	14.3		
	②自転車(電動アシストなし)	19		0.0		0.0		0.0	2	10.5		0.0		0.0		0.0	3	15.8	3	15.8	11	57.9		
	③電動アシスト自転車	201	1	0.5	31	15.4	17	8.5	17	8.5	17	8.5	12	6.0	12	6.0	3	1.5	6	3.0	47	23.4	38	18.9
	④バイク	1		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	1	100.0		0.0
	⑤自動車	128	43	33.6	3	2.3	6	4.7	6	4.7		0.0	3	2.3		0.0	11	8.6		0.0	30	23.4	26	20.3
	⑥バス	4	2	50.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	2	50.0
	⑦鉄道	3		0.0		0.0	2	66.7		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	1	33.3
	不明	14		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	14	100.0

震災後交通手段利用理由		件数	%
自転車	少人数時に利用	1	0.3
	冬場は雪のため時々利用	1	0.3
	小回りが利く	1	0.3
電動アシスト自転車	公共交通機関がない	9	2.4
	普通自転車・徒歩よりも、時間短縮	8	2.1
	贈呈されたので	6	1.6
	小回りが利く	5	1.3
	気分転換・健康のため	4	1.1
	力を必要としない・脚力がない・疲れない	3	0.8
	以前から使用していた	2	0.5
	活動場所によって便利なものを	2	0.5
	道路状況関係ないので	2	0.5
	駐車場を心配しないでよい	2	0.5
	無理な物資の運搬を頼まれない	1	0.3
	自分で移動するとき	1	0.3
	普通自動車免許がない	1	0.3
	友人宅の引っ越し	1	0.3
バイク	小回りが利く	1	0.3
	冬は路面の積雪、凍結により	10	2.7
自動車	多人数での移動手段	5	1.3
	道路状況が悪い・混雑している	4	1.1
	機動性・速度	3	0.8
	公共交通機関が不便	2	0.5
	自転車では不便	2	0.5
	帰りが夜	1	0.3
	自転車になかった	1	0.3
	徐々に道路が復旧してきたため	1	0.3
	寝泊まりできる	1	0.3



利用者・性別・年代別



震災後の主な交通手段

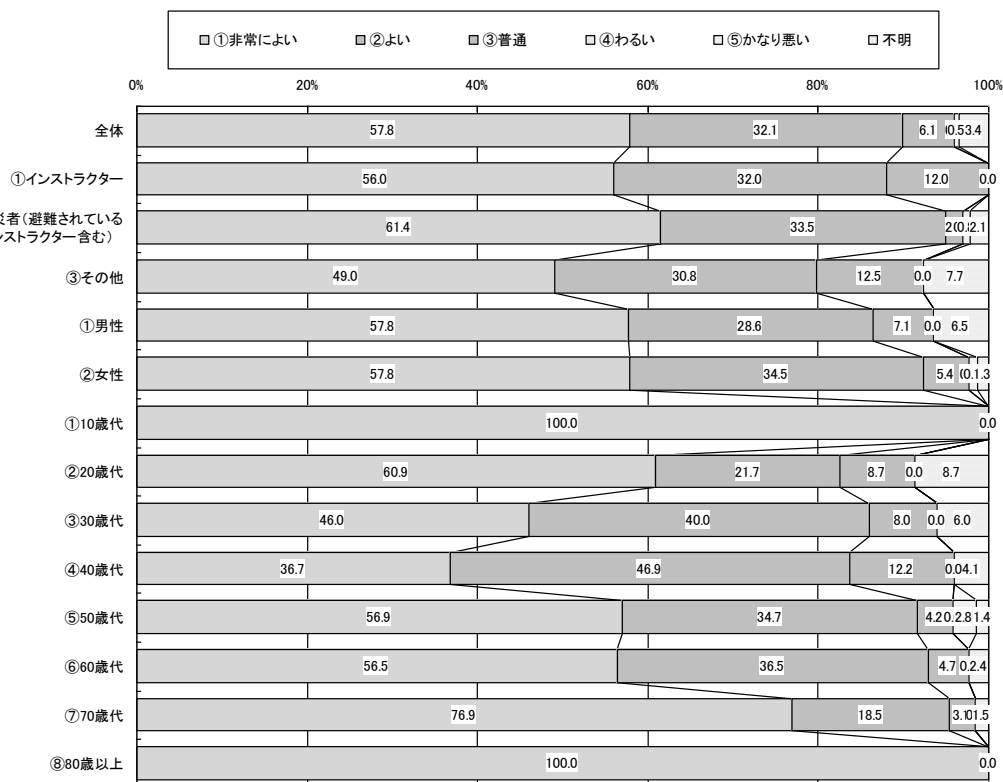
- ・ 震災後の交通手段として電動アシスト自転車を利用した理由は、「坂道・起伏」が15.4%と高く、自動車は「遠距離／広範囲」での利用率が33.6%と高い。
- ・ 電動アシスト自転車と自動車の利用理由を比較すると、「近距離」での利用において電動アシスト自転車が6ポイント、「維持費／ガソリン代」においても同様に約9ポイント上廻っており、いずれも優位な要因と考えられる。
- ・ その他意見として、電動アシスト自転車の利用理由は、「公共交通機関がない」、「時間短縮」、「小回りがきく」、「健康のため」、等の回答があった。
- ・ 自動車については、「遠距離／広範囲」での利用が33.6%、次いで「荷物」の運搬手段としての利用が8.6%と他の交通手段よりポイントが高い。その他意見として「冬季の路面への積雪、凍結による」、「多人数での移動手段」、「道路状況が悪い」、等の意見もみられた。

	n =	1km未満		1km～2km未満		2km～3km未満		3km～4km未満		4km～5km未満		5km以上		不明	
		件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
全体	377	23	6.1	84	22.3	112	29.7	47	12.5	59	15.6	45	11.9	7	1.9
震災後の主な交通手段	①徒歩	7	28.6	0.0	1	14.3	0.0	1	14.3	3	42.9	0.0			
	②自転車(電動アシストなし)	19	5.3	36.8	6	31.6	0.0	3	15.8	2	10.5	0.0			
	③電動アシスト自転車	201	2.5	16.9	70	34.8	28	13.9	33	16.4	28	13.9	3	1.5	
	④バイク	1	0.0	0.0	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	⑤自動車	128	8.6	29.7	34	26.6	17	13.3	16	12.5	8	6.3	4	3.1	
	⑥バス	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1	25.0	0.0	0.0	0.0		
	⑦鉄道	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1	33.3	0.0		
	不明	14	14.3	14.3	0.0	2	14.3	5	35.7	3	21.4	0.0			

- ・ 震災後の交通手段と活動距離の関係をみると、自転車(電動アシストなし)が「1～2km未満」で36.8%、電動アシスト自転車においては「2～3km未満」が34.8%、と最も高い比率である。
- ・ 自動車では、震災前の利用で「5km以上」の利用が16.2%あったものが、震災後には、6.3%と約10ポイント下がっている。

8. 電動アシスト自転車の利便性評価

		①非常によい		②よい		③普通		④わるい		⑤かなり悪い		不明	
n=		件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
全体		377	218	57.8	121	32.1	23	6.1	0.0	2	0.5	13	3.4
利用者	①インストラクター	25	14	56.0	8	32.0	3	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	②被災者(避難されているインストラクター含む)	236	145	61.4	79	33.5	5	2.1	0.0	2	0.8	5	2.1
	③その他	104	51	49.0	32	30.8	13	12.5	0.0	0.0	0.0	8	7.7
	不明	12	8	66.7	2	16.7	2	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	①男性	154	89	57.8	44	28.6	11	7.1	0.0	0.0	0.0	10	6.5
	②女性	223	129	57.8	77	34.5	12	5.4	0.0	2	0.9	3	1.3
年代	①10歳代	1	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	②20歳代	46	28	60.9	10	21.7	4	8.7	0.0	0.0	0.0	4	8.7
	③30歳代	50	23	46.0	20	40.0	4	8.0	0.0	0.0	0.0	3	6.0
	④40歳代	49	18	36.7	23	46.9	6	12.2	0.0	0.0	0.0	2	4.1
	⑤50歳代	72	41	56.9	25	34.7	3	4.2	0.0	2	2.8	1	1.4
	⑥60歳代	85	48	56.5	31	36.5	4	4.7	0.0	0.0	0.0	2	2.4
	⑦70歳代	65	50	76.9	12	18.5	2	3.1	0.0	0.0	0.0	1	1.5
	⑧80歳以上	9	9	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

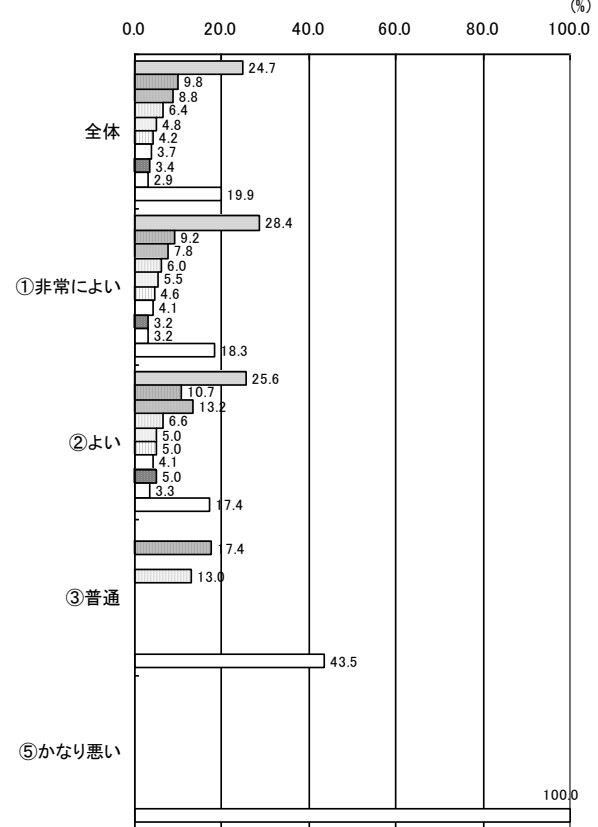
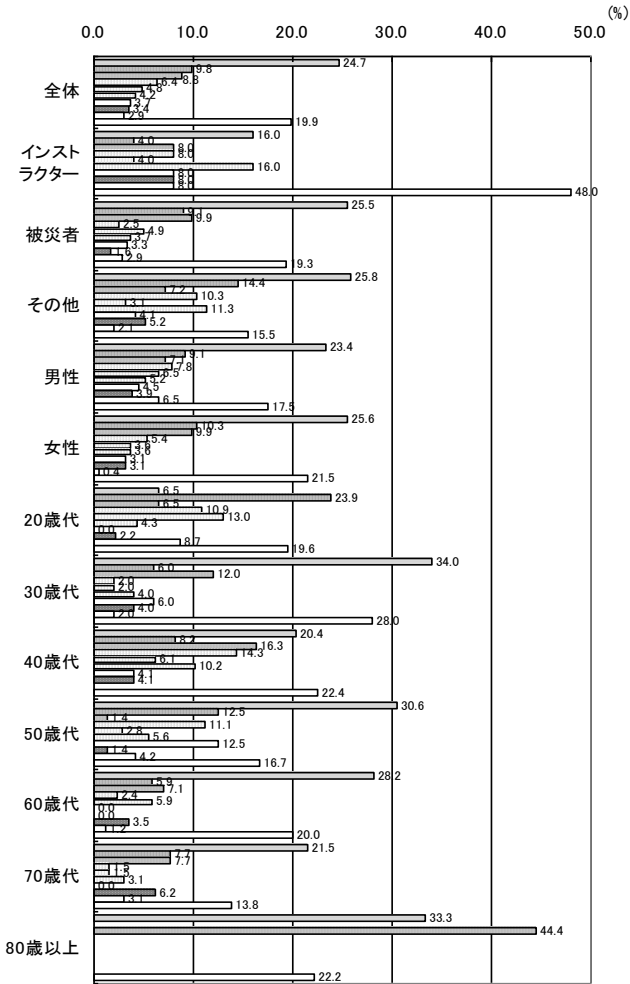
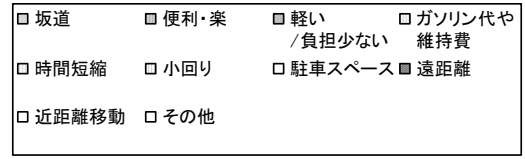
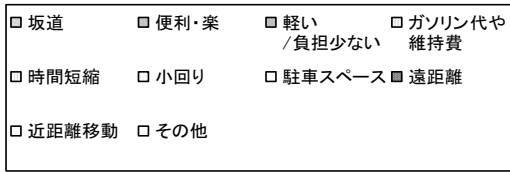


利用者・性別・年代別

- ・ 全体では、電動アシスト自転車の利便性についての評価は、「非常によい」が57.8%、「よい」が32.1%、と「非常によい」と「よい」を併せると89.9%と約9割を占める高い比率である。
- ・ 男女別では、「非常によい」と「よい」を併せると全体の結果とほぼ同様に約9割を占める。また、年代別においても「非常に良い」と「良い」を併せると、各年代においても約8割を超える比率となっており、いずれの場合においても利便性について、高い評価となっている。

9. 電動アシスト自転車利便性についての具体的評価理由

	n=	坂道		便利・楽		軽い/負担少ない		ガソリン代や維持費		時間短縮		小回り		駐車スペース		遠距離		近距離移動		その他		不明		
		件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	
全体	377	93	24.7	37	9.8	33	8.8	24	6.4	18	4.8	16	4.2	14	3.7	13	3.4	11	2.9	75	19.9	104	27.6	
利用者	①インストラクター	25	4	16.0	1	4.0	2	8.0	2	8.0	1	4.0	4	16.0	2	8.0	2	8.0	2	8.0	12	48.0	2	8.0
	②被災者(避難されているインストラクター含む)	243	62	25.5	22	9.1	24	9.9	6	2.5	12	4.9	9	3.7	8	3.3	4	1.6	7	2.9	47	19.3	74	30.5
	③その他	97	25	25.8	14	14.4	7	7.2	10	10.3	3	3.1	11	11.3	4	4.1	5	5.2	2	2.1	15	15.5	19	19.6
	不明	12	2	16.7		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	2	16.7		0.0	1	8.3	9	75.0
性別	①男性	154	36	23.4	14	9.1	11	7.1	12	7.8	10	6.5	8	5.2	7	4.5	6	3.9	10	6.5	27	17.5	42	27.3
	②女性	223	57	25.6	23	10.3	22	9.9	12	5.4	8	3.6	8	3.6	7	3.1	7	3.1	1	0.4	48	21.5	62	27.8
年代	①10歳代	1		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	1	100.0		0.0		0.0		0.0	1	100.0		0.0
	②20歳代	46	3	6.5	11	23.9	3	6.5	5	10.9	6	13.0	2	4.3		0.0	1	2.2	4	8.7	9	19.6	12	26.1
	③30歳代	50	17	34.0	3	6.0	6	12.0	1	2.0	1	2.0	2	4.0	3	6.0	2	4.0	1	2.0	14	28.0	10	20.0
	④40歳代	49	10	20.4	4	8.2	8	16.3	7	14.3	3	6.1	5	10.2	2	4.1	2	4.1		0.0	11	22.4	7	14.3
	⑤50歳代	72	22	30.6	9	12.5	1	1.4	8	11.1	2	2.8	4	5.6	9	12.5	1	1.4	3	4.2	12	16.7	18	25.0
	⑥60歳代	85	24	28.2	5	5.9	6	7.1	2	2.4	5	5.9		0.0		0.0	3	3.5	1	1.2	17	20.0	29	34.1
	⑦70歳代	65	14	21.5	5	7.7	5	7.7	1	1.5	1	1.5	2	3.1		0.0	4	6.2	2	3.1	9	13.8	26	40.0
	⑧80歳以上	9	3	33.3		0.0	4	44.4		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	2	22.2	2	22.2
利便性評価	①非常によい	218	62	28.4	20	9.2	17	7.8	13	6.0	12	5.5	10	4.6	9	4.1	7	3.2	7	3.2	40	18.3	60	27.5
	②よい	121	31	25.6	13	10.7	16	13.2	8	6.6	6	5.0	6	5.0	5	4.1	6	5.0	4	3.3	21	17.4	26	21.5
	③普通	23		0.0	4	17.4		0.0	3	13.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	10	43.5	7	30.4
	④わるい	0																						
	⑤かなり悪い	2		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	2	100.0		0.0
	不明	13		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	2	15.4	11	84.6



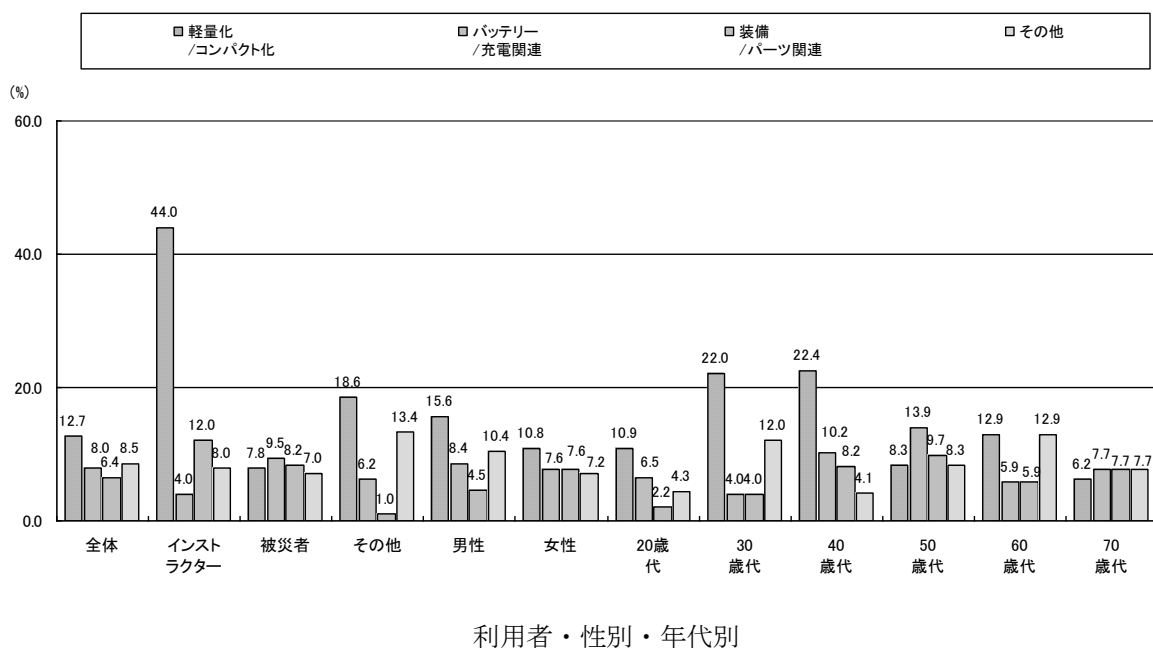
利便性評価

利用者・性別・年代別

- ・ 電動アシスト自転車利便性の評価理由として「坂道」での利便性が最も高く24.7%である。次いで、「便利・楽」が9.8%、「軽い/負担少ない」が8.8%と続いている。
- ・ 男女別の利便性の評価理由としても「坂道」での利用が男性で23.4%、女性で25.6%、次いで「便利・楽」が男性9.1%、女性10.3%、「軽い/負担が少ない」が男性7.1%、女性9.3%と全体評価理由と同様に推移している。
- ・ 年代別の評価理由として、20歳代において「便利・楽」であるが23.9%と、全体と比較すると約14ポイントも高い評価となっている。また、30歳代以上の年代では、「坂道」での利用理由の優先順位が高い。

10. 電動アシスト自転車の改善点・要望

		n=	軽量化 /コンパクト化		バッテリー /充電関連		装備 /パーツ関連		その他		不明	
			件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)	件数	(%)
全体		377	48	12.7	30	8.0	24	6.4	32	8.5	258	68.4
利用者	①インストラクター	25	11	44.0	1	4.0	3	12.0	2	8.0	11	44.0
	②被災者(避難されているインストラクター含む)	243	19	7.8	23	9.5	20	8.2	17	7.0	170	70.0
	③その他	97	18	18.6	6	6.2	1	1.0	13	13.4	65	67.0
	不明	12		0.0		0.0		0.0		0.0	12	100.0
性別	①男性	154	24	15.6	13	8.4	7	4.5	16	10.4	99	64.3
	②女性	223	24	10.8	17	7.6	17	7.6	16	7.2	159	71.3
年代	①10歳代	1		0.0		0.0		0.0		0.0	1	100.0
	②20歳代	46	5	10.9	3	6.5	1	2.2	2	4.3	35	76.1
	③30歳代	50	11	22.0	2	4.0	2	4.0	6	12.0	32	64.0
	④40歳代	49	11	22.4	5	10.2	4	8.2	2	4.1	29	59.2
	⑤50歳代	72	6	8.3	10	13.9	7	9.7	6	8.3	45	62.5
	⑥60歳代	85	11	12.9	5	5.9	5	5.9	11	12.9	59	69.4
	⑦70歳代	65	4	6.2	5	7.7	5	7.7	5	7.7	48	73.8
	⑧80歳以上	9		0.0		0.0		0.0		0.0	9	100.0



改善点・要望 内訳		件数	%
軽量化 ／コンパクト化	重い・軽くしてほしい	26	6.9
	女子・高齢者では持ち上げることが難しい	7	1.9
	もっとコンパクト・小さく	5	1.3
	電動アシストがない状態での漕ぐ力を軽く	4	1.1
	段差を乗り越えるのは重く、大変	2	0.5
	軽いと操作性が楽	1	0.3
	かっこよく、軽く	1	0.3
	充電器やフレーム装置が重い	1	0.3
バッテリー ／充電関連	非常に重く、充電がなくなった時の負担	1	0.3
	バッテリーの時間、容量アップ	9	2.4
	漕いで走行しながらエネルギー充電	4	1.1
	ソーラー等のエコの充電	4	1.1
	充電が面倒、充電回数の軽減	3	0.8
	セットして充電するときすぐにセットできない	2	0.5
	電気代を安く	2	0.5
	電気が残っていても充電できるように	2	0.5
	停電時対応	1	0.3
	充電を忘れる	1	0.3
	バッテリーの消耗が早い	1	0.3
装備／パーツ	長距離でも使えるよう。充電の問題等	1	0.3
	サドルが固い、柔らかく	4	1.1
	カギの開け閉め楽に	4	1.1
	雪道対策・スタッドレスタイヤ	3	0.8
	買い物用のかご・かごのカバー	3	0.8
	少し風が強いとたおれる	2	0.5
	冬の防寒対策・手袋等	2	0.5
	方向指示器・スピードメーターの装着	2	0.5
	アシスト機能の操作性向上・見やすさ	1	0.3
	荷台の選択	1	0.3
	充電の状況確認できるように	1	0.3
その他	夜間灯を大きく、バックミラー	1	0.3
	便利・感謝	6	1.6
	色やデザイン、かっこよく	5	1.3
	量産化・低価格化	4	1.1
	天候対策	3	0.8
	操作性向上	3	0.8
	オフロード・クロスバイクタイプ	2	0.5
	急加速する	2	0.5
	盗難心配	2	0.5
	呼び名	1	0.3
	個人用に欲しい	1	0.3
ガソリン心配ない	1	0.3	
他の仮設でも利用したい	1	0.3	
一定以上のスピードがでない	1	0.3	

改善点、要望点に関する自由回答分類別の主な意見

- 自由回答の結果、電動アシスト自転車の改善点・要望については、「軽量化／コンパクト化」、「バッテリー／充電関連」、「装備／パーツ関連」、「その他」の4つに分類された。
- 「軽量化／コンパクト化」に関する意見として、具体的には、「もっとコンパクトに小さく」、「女性・高齢者では持ち上げる事が難しい」ため車体を軽くしてほしい等、軽量・コンパクト化を求める意見が多くみられた。
- 「バッテリー／充電関連」では、「漕いで充電できるもの」、「ソーラー充電」、等のエコに関するもの、「バッテリーの容量アップ」、「バッテリーの持ち時間を長く」、「電気代をもっと安く」、「充電回数の軽減」等の実際の使用に関しての意見が見られた。
- 「装備／パーツ関連」では、「サドルが固い」、「カギや変速装置の操作性アップ」「取り外し可能なカゴ」、「方向指示器」、「スタッドレスタイヤ（雪道用）」、等の意見がみられた。

1 1. 自由意見

- ・ 自由意見の回答数は、126件（33.4%）と全体の回答数の約3割を占める。内訳として、感謝の言葉を含めたポジティブ（肯定的）な意見が118件、と本回答に対する約94%を占めており、ネガティブ（否定的）な意見は8件と少なく本回答数の約6.3%となっている。

主な意見（ポジティブ）

- ・「支援のお蔭で私たちはとても感謝しています。家屋流出した家庭の高校生など、この支援が喜ばれたのではないかと思った。」（被災者・男性・20代）
- ・「自転車を見るたびに皆様から頂いた支援の大きさを感、元気を出さねばと思いません。ゆっくりではありますが、前向きに進んでまいります。この場を借りて感謝の気持ちをお伝えします。」（被災者・女性・30代）
- ・「乗り心地がよく、快適な自転車でありがたく利用させて頂いております。」（インストラクター・男性・60代）
- ・「ありがとうございました。白菜などの大きな買い物も重くなく楽に運んでいます。」（被災者・男性・20代）
- ・「冬場はアイスバーンになる八戸市です。夏場のガソリンの節約になりとても助かっています。これからも被災された方々特に高齢者の見守りを続けたいと思っております。」（女性・40代）
- ・「自動車免許の無いスタッフがいるため、大変ありがたい。また、駐車スペースの無い所に行く時や、車では行けない道などを通して行けるので時間の短縮やガソリン代の節約にもなり大変便利である。」（支援者・女性・50代）
- ・「アシスト機能があるとないとは大きな差があり、疲労が少ない。しかもスピードもかなり速い。」（女性・40代）
- ・「震災後、この自転車のおかげで自動車も通れないほど隆起・陥没している場所（道路）でも端のほうを進むこともでき、お便りの配布などにはとても重宝しました。」（児童厚生員・男性・30代）

- ・「東日本大震災を機会に、多くの方々の省エネルギー志向が強まっている中、ガソリン等のエネルギーを使用しない、電動アシスト自転車はとても時代にマッチしているように思います。ありがとうございました。」(男性・50代)

主な意見 (ネガティブ)

- ・「高いので買えない」(被災者・男性・60代)
- ・「自宅敷地内に置いても盗難が多いので、玄関の中に入れていたため階段を5段持ち上げるのが大変です。」(被災者・女性・40代)
- ・「サドルの調整をしていなくて、少し高かった時、ドテンと転んでしまった。雨上がりの水たまりで、痛かったです。」(女性・60代)
- ・「なんで電気代こんなに高いの?と思ったら、自転車の使用を始めたことだった。」(被災者・女性・50代)

IV. 参考資料

平成23年度被災地域における自転車購入支援及び提供

電動アシスト自転車の提供・利用状況調査

電動アシスト自転車を利用された方が記入

財団法人自転車産業振興協会
公益財団法人さわやか福祉財団

東日本大震災の被災者の皆様に対し、謹んでお見舞い申し上げます。

平素から電動アシスト自転車をご利用いただき、誠にありがとうございます。

大変お忙しいこととは存じますが、皆様のニーズを把握し、今後の電動アシスト自転車の更なる開発・改良につなげるため、アンケートをお願いするものです。

何卒、ご協力をお願いします。

アンケート記入日	平成	年	月	日
----------	----	---	---	---

問1. 電動アシスト自転車を利用され、アンケートにご記入いただいた方について次から選び、一つに○をつけてください。

- ①インストラクター ②被災者（避難されているインストラクター含む）
③その他（ ）

問2. 問1.の方の性別を次から選び、一つに○をつけてください。

- ①男性 ②女性

問3. 問1.の方の年代を次から選び、一つに○をつけてください。

- ①10歳代 ②20歳代 ③30歳代 ④40歳代
⑤50歳代 ⑥60歳代 ⑦70歳代 ⑧80歳以上

問4. 問1.の方の電動アシスト自転車の用途について次から選び、一つに○をつけてください。

- ①在宅支援 ②避難者の支援 ③高齢者・障害者支援
④安否確認 ⑤教育機関の支援 ⑥避難所・仮設住宅の支援
⑦その他（ ）

問5. 問4.の具体的な利用方法や内容などについてご記入ください。

問6. 活動拠点(出発点)から支援先(目的地)までの距離を次から選び、一つに○をつけてください。

- ①1km未満 ②1km～2km未満 ③2km～3km未満
④3km～4km未満 ⑤4km～5km未満 ⑥5km以上

問 7. 東日本大震災発生以前、地域支援活動に利用していた主な交通手段を次から選び、一つに○をつけてください。

- ①徒歩 ②自転車(電動アシストなし) ③電動アシスト自転車
④バイク ⑤自動車 ⑥バス ⑦鉄道

問 8. 問 7 で回答した交通手段を利用した理由について、具体的にご記入ください。

問 9. 東日本大震災発生後、現在の地域支援活動に利用している主な交通手段を次から選び、一つに○をつけてください。今回ご提供させていただいた電動アシスト自転車を含めて、お答えください。

- ①徒歩 ②自転車(電動アシストなし) ③電動アシスト自転車
④バイク ⑤自動車 ⑥バス ⑦鉄道

問 10. 問 9 で回答した交通手段を利用した理由について、具体的にご記入ください。

問 11. 東日本大震災発生後、現在の電動アシスト自転車の利便性について次から選び、一つに○をつけてください。

- ①非常によい ②よい ③普通 ④わるい ⑤かなり悪い

問 12. 問 11. で回答した理由について、具体的にご記入ください。

問 13. 電動アシスト自転車の改善点や要望について、ご自由にご記入ください。

問 14. その他、ご自由にご意見をご記入ください。

電動アシスト自転車提供先

No.	提 供 先	都道府県	電動アシスト自転車 (台)
1	宮城県亶理郡山元町旧坂元中学校跡地 応急仮設住宅自治会	宮城県	8
2	宮城県亶理郡山元町中山地区 応急仮設住宅自治会	宮城県	22
3	宮城県亶理郡山元町避難所 中央公民館	宮城県	28
4	宮城県亶理郡山元町箱根地区 応急仮設住宅自治会	宮城県	22
5	岩手県陸前高田市立横田小学校	岩手県	1
6	岩手県陸前高田市立矢作小学校	岩手県	1
7	岩手県陸前高田市立米崎小学校	岩手県	1
8	岩手県陸前高田市立長部小学校	岩手県	1
9	岩手県陸前高田市立竹駒小学校	岩手県	1
10	岩手県陸前高田市立広田小学校	岩手県	1
11	岩手県陸前高田市立高田小学校	岩手県	1
12	岩手県陸前高田市立第一中学校	岩手県	5
13	岩手県陸前高田市立米崎中学校	岩手県	1
14	岩手県陸前高田市立横田中学校	岩手県	1
15	宮城県石巻市立湊小学校	宮城県	2
16	岩手県陸前高田市教育委員会	岩手県	1
17	地域生活支援オレンジねっと	宮城県	1
18	NPO法人 県南介護サポートかがやきネット	秋田県	8
19	蓬菜まちづくりコミュニティぜえね	福島県	3
20	えがおくらぶ	青森県	2
21	学習サークル「サン ハウス」	青森県	1
22	ナルク八戸	青森県	2
23	特定非営利法人 たすけあい・さわやか青森	青森県	3
24	特定非営利活動法人 生活習慣改善センター	宮城県	1
25	国際交流協会ともだち in 名取	宮城県	8
26	NPO法人 いしのまきNPOセンター	宮城県	2
27	NPO法人 FOR YOU にこにこの家	宮城県	2
28	特定非営利活動法人 せんだい杜の子ども劇場	宮城県	3
29	特定非営利活動法人 ワンファミリー仙台	宮城県	3
30	特定非営利活動法人 石巻スポーツ振興サポートセンター	宮城県	3
31	宮城青年国際交流機構 (宮城IYE0)	宮城県	4
32	NPO法人 ネットワークオレンジ	宮城県	2
33	特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター	宮城県	2
34	NPO 遠野まごころネット	岩手県	35
35	ゴトウ学習塾	宮城県	18

合計 5県 35箇所 200台